

我が県土
支え育む
希望郷



美しい

県土づくりNEWS

2018年

10月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第171号
平成30年11月1日発行
編集 県土整備企画室



三陸復興

目次

- 2 一般県道安家玉川線 野田村下安家地区完成！
- 4 「陸前高田市まちびらき記念式典」が開催されました！！
- 6 第5回岩手広告景観タウンミーティングを開催奥州市で初開催 ～景観からの地域づくり～
- 7 内丸緑地のヒマラヤスギを伐採しています
- 8 重機オペレーター技能競技大会を初開催
- 9 いわて花巻空港スカイフェスタ2018開催
- 10 今年はアプリで！第15回岩手「道の駅」いーはとーぶスタンプラリー開催のお知らせ
- 11 宮蘭フェリーで北海道の復興を応援しよう！～宮古×室蘭スタンプラリー 開催中！～
- 12 復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！
釜石道特集① 東北横断自動車道釜石秋田線とは？

まちづくり連携道路 一般県道安家玉川線 野田村下安家地区が完成！

道路建設課・県北広域振興局土木部

東日本大震災津波によって被災し、野田村が行う「漁業集落防災機能強化事業」と一体となって県が整備を進めてきた一般県道安家玉川線下安家地区（L=1.3km）が、平成30年9月19日に完成しました。

道路の整備によって、東日本大震災津波相当の津波でも浸水しない、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークとして強化が図られるほか、地域の漁港から内陸部への物流の効率化や観光地へのアクセス強化など、地域の活性化が期待されます。



村のまちづくり事業と連携して道路を嵩上げしました。
（なお、写真中央で施工中の橋脚は、国が整備を進めている新安家大橋（仮称）です。）

【まちづくり連携道路】
一般県道安家玉川線 野田村下安家地区完成！

道路建設課
 県北広域振興局土木部

県が、東日本大震災津波を受け平成24年度から「まちづくり連携道路」として整備を進めてきた、一般県道安家玉川線下安家地区（L=1.3km）が、平成30年9月19日に完成しました。

完成に伴い、「工事报告会及び完成記念祝賀会」を開催し、小田野田村長、南県北広域振興局長、中平県議会議員、野田村議会議員、地権者の皆さまなど約50人出席のもと、工事の完成を祝いました。

工事报告会では、南県北広域振興局長による式辞、小田野田村長、中平県議会議員及び竹田宮城建設(株)代表取締役社長の祝辞、高橋県北広域振興局土木部長による事業経過報告が行われました。

完成記念祝賀会は、島川下安家漁業協同組合代表理事組合長の祝辞、また、地権者及び地域の関係者の方々に多数出席をいただき、非常に盛会でありました。



● 開通により期待される整備効果

一般県道安家玉川線は、九戸郡野田村下安家の一般国道45号を起点とし、下閉伊郡岩泉町安家字年々口的一般県道普代小屋瀬線に至る総延長約20kmの路線であり、内陸部と沿岸部を結ぶ岩手県北部の産業、経済活動を支える補助幹線道路として重要な役割を担っています。

効果1 安全で信頼性の高い道路ネットワークの強化

当該路線は、東日本大震災において、住民の避難や救援物資輸送など緊急輸送道路として重要な役割を果たしました。今回の整備では、野田村実施のむらづくり計画「漁業集落防災機能強化事業」による宅地地盤嵩上げと一体的に県道を嵩上げすることにより、東日本大震災津波相当の津波でも浸水しない、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークとして強化が図られます。

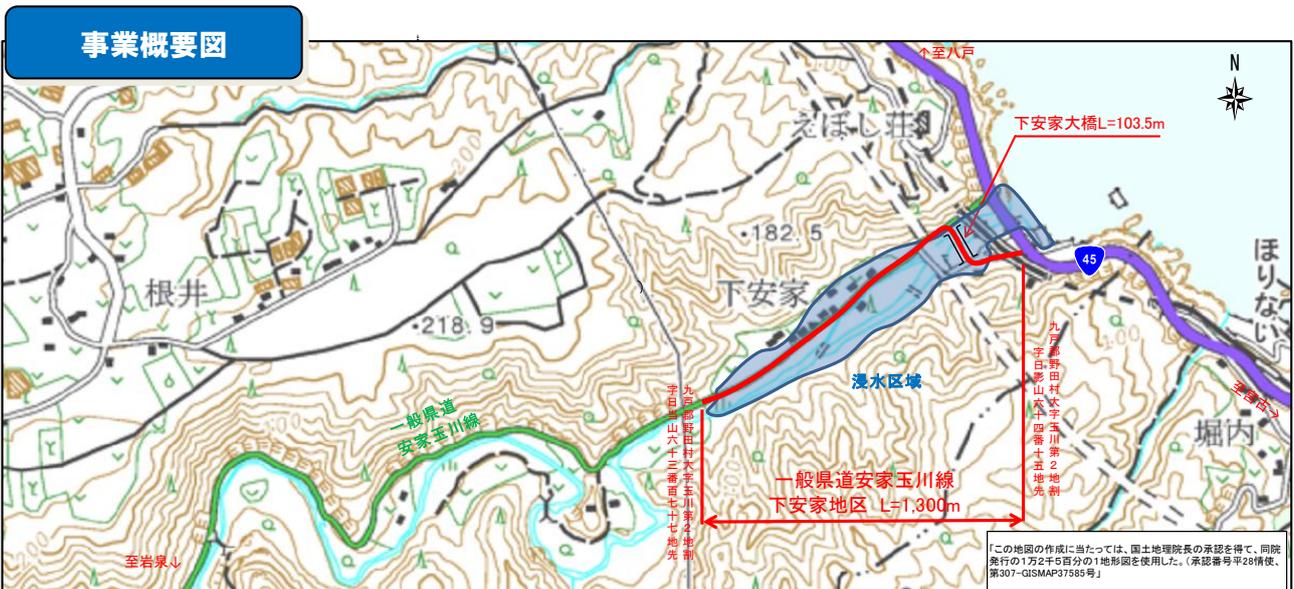
効果2 安全・安心な通行の確保

当該区間が整備されることにより、浸水しにくくなり、安全で円滑な交通機能が確保され、また、海側からの避難路として機能向上が図られます。

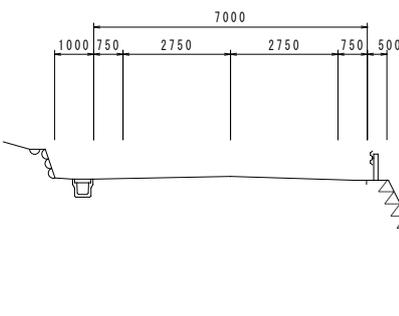
効果3 物流の効率化、豊富な観光資源へのアクセス向上

東日本大震災津波相当の津波でも浸水しない整備を行なうことにより、補助幹線道路としての機能強化が図られ、下安家漁港と内陸部への物流の効率化と東日本大震災からの復旧復興へ寄与します。

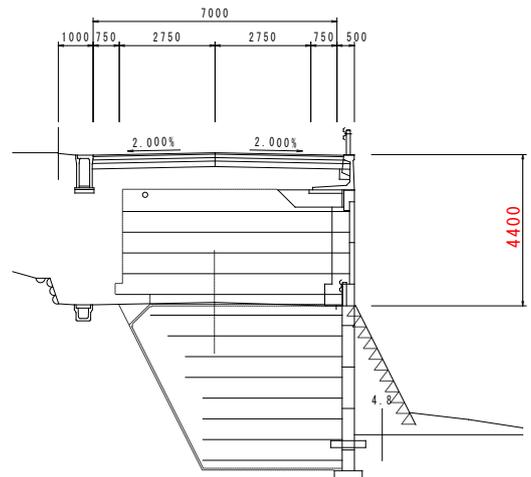
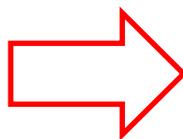
当該路線の岩泉町側には、観光地である日本一長い洞窟の安家洞があり、当該区間を整備することにより、沿岸部から内陸部への観光資源へのアクセスが強化され、岩手県の豊富な観光資源を活用した地域の自立と活性化が期待されます。



震災前標準断面



整備後標準断面



「陸前高田市まちびらき記念式典」が 開催されました！！

都市計画課

陸前高田市では、中心市街地周辺地区において、津波復興拠点整備事業等による整備が進められてきました。事業により、「交通広場」が完成し、「高田南幹線」が開通したことから、平成30年9月30日、アバッセたかたにおいて、陸前高田市の主催によるまちびらき記念式典が開催されました。

＜ 陸前高田市まちびらき記念式典の概要 ＞

国、県、市、地元関係者ら約110名が出席し、式典では地元小中高生がまちへの思いや期待、将来の夢を語った後、まちびらきが力強く宣言されました。

式典に先立ち、ツール・ド・三陸の開会式が開催され、競技参加者に新しい中心市街地のお披露目が行われ、前日29日には、市街地南を東西に走る高田南幹線の開通を祝う「館の沖橋の渡り初め」を行い、もちまきによる振る舞いなど、盛大にお祝いが行われました。

＜ まちびらき記念式典等の様子 ＞



▲式典会場 全景（アバッセたかた）



▲テープカット



▲ツール三陸開会式



▲市民楽団の演奏



▲戸羽 陸前高田市長 主催者挨拶



▲佐々木 復興局長 祝辞（知事代理）



▲BRT 出発式



▲館の沖橋開通式（高田南幹線）29日



▲「アバッセたかた」をはじめとする中心市街地の様子

＜ 陸前高田市高田南地区津波復興拠点整備事業の概要 ＞

(1) 事業目的

本事業により、壊滅的な被害を受けた中心市街地に、大型商業施設及び周辺の小規模店舗、公益施設が一体となって被災地の復興を先導する拠点を整備するもの。

(2) 事業期間：平成 26～32 年

(3) 事業規模：約 19ha

(4) 総事業費：約 130 億円

(5) 交通広場：BRT、高速バス、路線バスの乗降場

(6) 高田南幹線：W=20m、L=624m

第5回岩手広告景観タウンミーティングを開催 奥州市で初開催 ～景観からの地域づくり～

都市計画課

岩手県では、屋外広告業関係者・市町村と共同で、身近な広告景観を通じて、景観のあり方を考える「岩手広告景観タウンミーティング」を開催しています。

5回目となる本年度は、奥州市で初開催し、県民参加による取組拡大を図っています。

＜タウンミーティングの内容＞

より良い広告景観を形成するため、屋外広告業者・行政・地域などが情報を共有し、まち歩きやワークショップを通じ、都市景観の中における屋外広告物の役割を理解しながら、理想とする景観を、ともに考える機会としてタウンミーティングを開催しています。

平成26年度から5回目となる今回は、地元の商業高校生・NPO・住民など約30名が5班に分かれて奥州市水沢駅西口地区をまち歩きし、気になる看板や案内板を写真撮影のうえ、ワークショップにて意見交換・各班発表を行ないました。

高校生が発表した班からは、「地域住民が自ら景観を意識していくことが、魅力あるまちづくりにつながる」との意見も出るなど、広告と街並みの調和に対する意識の高さが伺えました。

＜第5回 岩手広告景観タウンミーティング＞

日時：平成30年10月20日（土）13：30～17：00

会場：奥州市水沢字横町 市民プラザ・マッセ 多目的ホール

まち歩き：奥州市水沢駅西口地区

主催：岩手県屋外広告美術業協同組合

共催：岩手県、奥州市

＜タウンミーティングの様子＞



まち歩き



意欲的な地元高校生の参加

意見交換

- ・色あせた看板や老朽化した看板は、直した方が良い。
- ・鋳物など地場産品を利用した看板が良い。
- ・普段気にならなかった看板も、今回のまち歩きで良い点、悪い点に気づかされた。



ワークショップ



ワークショップ



各班発表

内丸緑地のヒマラヤスギを伐採しています

都市計画課・盛岡広域振興局土木部

岩手県庁前の内丸緑地には、昭和45年頃にヒマラヤスギ41本が植えられ、樹齢約50年、樹高25m以上に育ち、利用者に憩いの空間を創出していました。

しかし、将来的な倒木の危険性があることから、平成29年度にヒマラヤスギ41本全てを伐採することを決定し、10月から現在伐採作業を行っています。

今後、年内に伐採作業を完了し、年度内に抜根作業を完了することを目指して進めていきます。

経緯と取組状況

○ 内丸緑地のヒマラヤスギについて

内丸緑地は、県立図書館、消防署等の移転後の跡地に、緑地及び広場として整備され、昭和52年4月1日に開設しました。サツキとドウダンツツジの生垣に囲まれ、緑地内にはヒマラヤスギ、ヤマボウシ、ナナカマド、シラカバ、ユリノキなどが植えられています。

【植樹当時の写真】

出典：『写真アルバム 盛岡・滝沢・岩手・紫波の昭和』（株式会社いき出版）



○ 将来的な倒木の危険性が判明

平成26年度に実施した内丸緑地公園施設長寿命化計画見直しのための調査で、ヒマラヤスギの倒木の懸念が指摘されました。そこで、詳細な生育状況を把握し、今後の望ましい管理について検討するため、平成27年度に樹勢診断調査を行いました。

調査の結果、倒木や折損などの甚大な被害発生の喫緊の可能性は小さいものの、根系の衰退、重心の上昇、枝の配置の偏りが生じており、将来的な倒木の危険性があることが判明しました。

○ ヒマラヤスギの伐採が決定

県では、内丸緑地のヒマラヤスギ高木化に対する対応策を含めた管理のあり方を検討するため、平成28年度11月に内丸緑地管理検討委員会を設置しました。平成29年度7月の第3回委員会において、内丸緑地のヒマラヤスギは41本全てを伐採することが適当であるとの結論に至りました。

このことを受けて、平成30年10月9日に伐採作業を開始しており、今後、年内に伐採作業が完了、年度内を目途に抜根作業が完了する予定です。

【伐採前の内丸緑地】



【伐採中の内丸緑地】



重機オペレーター技能競技大会を初開催

建設技術振興課

平成30年8月23日（木）に盛岡競馬場で重機オペレーター技能競技大会が開催されました。本大会は、重機オペレーターの技能の更なる向上とやりがいの創出により、ひいては将来的な技能継承につなげることを目的として、初めて開催されたものです。

参加したオペレータの平均経験年数は27年（最長42年）で、日頃現場で培ってきた技術を存分に発揮していました。競技は「法面整形」と「10tダンプへの積込み」の2種目で、出来栄やスピード等を審査し、優れた重機オペレーターを表彰しました。

また、大会の最後にはエキシビジョンマッチとして、優勝者と女性オペレーターが運転するICT建機による法面整形が行われました。

【出場選手名簿】

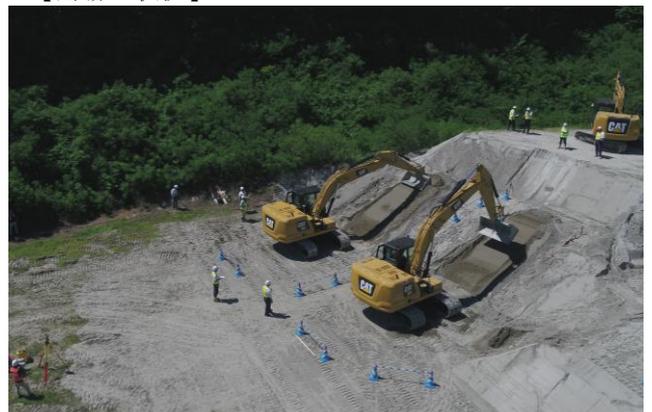
No	支部	会社名	氏名	経験年数
1	盛岡	樋下建設(株)	畑山 正行	38年
2	花巻	成和建设(株)	佐藤 英司	20年
3	遠野	(株)かばら	菊池 勝也	18年
4	北上	(株)小田島組	本館 透	30年
5	奥州	進栄建設(株)	千葉 裕明	15年
6	一関	(有)矢萩建設	石川 数徳	20年
7	千厩	(株)千葉建設	藤田 孝一	16年
8	大船渡	(株)中澤組	霜山 隆	40年
9	釜石	(株)及川工務店	高清水 一志	42年
10	宮古	(株)オガサワラ産業	関 義昭	36年
11	岩泉	(株)畑中組	早野 豊	33年
12	久慈	兼田建設(株)	中村 次雄	30年
13	二戸	(有)甲斐建設	平内 慎也	14年
			経験年数平均	27年

【競技：法面整形】

バックホウで定められた勾配の法面を施工するもの。



【会場の状況】



【競技：10tダンプへの積込み】

バックホウで7tの土砂を10tダンプへ積込むもの。



【エキシビジョンマッチ】

優勝者 VS ICT建機



いわて花巻空港

スカイフェスタ2018

開催



県土整備企画室

多くの来場者が空港の魅力を堪能！！

スカイフェスタは、空の日にちなんだ恒例のイベントで、9月23日（日・祝）に花巻空港ウエストエプロンで開催しました。

当日は天気にも恵まれ、12,270名が来場し、大変賑わいました。

普段は立ち入ることができない空港の制限区域で、防災ヘリコプターや化学消防車によるデモンストレーション、防災航空隊

の活動紹介コーナーなどを通じて、来場された皆様に空港への関心を高めていただきました。

また、今年は曲技機 Pitts（ピッツ）によるデモフライトも行われ、迫力ある曲技飛行に熱い視線が送られ、大きな歓声が上がっていました。



救助デモ



防災ヘリ「ひめかみ」



化学消防車 乗車体験



曲技機ピッツによるデモフライト

スカイフェスタの主な内容

(1) アトラクション

- 化学消防車による放水デモ
- 防災ヘリコプターによる救助デモ
- Pitts S-2C（ピッツ）によるデモフライト

(2) 体験・PRイベント

- 化学消防車乗車体験コーナー
- 消防隊着せ替えコーナー
- 防災航空隊の活動紹介コーナー
- タワー（管制塔）見学（事前応募制）
- 遊覧搭乗飛行（事前応募制）

(3) 各種展示・PRブース

- 機材展示
 - （防災ヘリ、北日本航空㈱、海上保安庁）
- PRブース
 - （岩手県空港利用促進協議会、航空会社）

今年はアプリで!!!

第15回岩手「道の駅」いーはとーぶスタンプラリー 開催のお知らせ

道路環境課

第15回岩手「道の駅」いーはとーぶスタンプラリーが、平成30年11月1日(木)から平成31年4月22日(月)までの間開催されます。皆様の参加をお待ちしています。

●スタンプラリーの内容

A賞 いわてフルマラソン大賞	B賞 道の駅つめちゃったで大賞
33 駅全てのスタンプを集めて応募された方から、抽選で 10 名様に 10,000 円相当の岩手県内特産品をプレゼント!	16 駅以上のスタンプを集めて応募された方から、抽選で 33 名様に 5,000 円相当の特産品をプレゼント!
10 名様	33 名様
C賞 馬かったで賞	D賞 いーはとーぶ賞
8 駅以上のスタンプを集めて応募された方から、抽選で 99 名様に 3,000 円相当の特産品をプレゼント!	4 駅以上のスタンプを集めて応募された方から、抽選で 100 名様に県内道の駅で使える 1,000 円分の商品引換券をプレゼント!
99 名様	100 名様
Wチャンス賞	完走賞
A~D賞に当選しなかった全応募者の中から抽選で 100 名様に県内道の駅で使える 500 円分の商品引換券をプレゼント!	33 駅全てのスタンプを集めて応募された方全員に、完走記念きっぷを発行!
100 名様	完走者 全員

※道の駅「高田松原」は現在休業中です。

応募用紙

第15回 いーはとーぶスタンプラリー

11.1(木)~19.4(月)

応募は各1人様1枚に限りさせていただきます。

みんなが使う「道の駅」マナーをさらに効果的に利用しましょう!!

ゴミの持ち帰りは必ず徹底して下さい。

「道の駅」は公共の場です。各エコープラザ・トイレ・休憩スペースはみんなが使うものです。みなさんが気持ちよく使えるよう大切にしたいです。

動物や植物は大敵に思いいよう。

トイレ・休憩スペースはみんなが使うものです。みなさんが気持ちよく使えるよう大切にしたいです。

多回使え、スマホアプリでも登録が可能です!

アプリをダウンロードしたらこちらから!

最新情報はこちら!

<http://www.pref.iwate.go.jp/roadstamp/>

主催：岩手県「道の駅」連絡会
 岩手県国土整備部 調査第二課 TEL019-624-3196
 三陸国道事務所 交通対策課 TEL0193-71-1718
 岩手県国土整備部 道路環境課 TEL019-629-5880

●応募用紙は、県内の道の駅各駅にあります。岩手県内の「道の駅」に置いている応募用紙(お1人様1枚)に各「道の駅」のスタンプを捺印し、必要事項を記入切り取りの上、切手を貼って応募してください。今年から、アプリでの参加も可能です。詳細は応募用紙をご覧ください。

●お問い合わせ先

岩手河川国道事務所 調査第二課 TEL019-624-3196
 三陸国道事務所 交通対策課 TEL0193-71-1718
 岩手県国土整備部 道路環境課 TEL019-629-5880
 又は各道の駅まで。

★これからの時期は、峠部等において路面凍結のおそれがあります。
 ★時間と車間距離に余裕を持った運転をお願いします。

宮蘭フェリーで 北海道の復興を 応援しよう！

宮古×室蘭スタンプラリー 開催中！



宮古・室蘭フェリー航路の開設を記念して、スタンプラリーを開催中！

シルバーキーン、宮古港・室蘭港フェリーターミナル、岩手県と北海道（道央）の道の駅を巡ってスタンプを集めると、抽選で、岩手県や北海道の特産品が当たります！

岩手県の宮古港と北海道の室蘭港を結ぶフェリーを使って、岩手の三陸や北海道を訪れてみませんか？

詳しくは、フェリーターミナルや道の駅で配布している応募シートや、県ホームページをご覧ください。

主催：岩手県 共催：北海道胆振総合振興局

協力：川崎近海汽船株式会社、

岩手県「道の駅」連絡会、

北海道「道の駅」連絡会、宮古市、室蘭市

復興道路等の整備による「ストック効果」を紹介します！

釜石道特集①

【第 12 回】

東北横断自動車道釜石秋田線(釜石道)とは？

Q 釜石道とは？

釜石道は釜石市から花巻市までの延長 80km の高速道路で、
今年度(平成 30 年度)に全線開通します！
 この全線開通はこれまでの開通とは異なりとてもすごいことです。

A

Q とてもすごいこと？

今回の全線開通には 2 つの初があります。
 ① 岩手県内の内陸と沿岸を結ぶ**初**の**高速道路**！
 ② 国の復興道路・復興支援道路での**初**の**全線開通**！
 さらにこれまで同様、**無料**(東和～花巻を除く)で通行可能です！

A

▼ 東北横断自動車道釜石秋田線(釜石道)の位置図



Q 復興道路・復興支援道路とは？

東日本大震災津波からの復興に向けて国のリーディングプロジェクトとして位置づけられた道路です。かつてないスピードで整備が進められています。
 復興道路(縦軸)：三陸沿岸道路(三陸道)
 ↳今年度、釜石以南の県内区間がつながります！
 復興支援道路(横軸)：釜石道、宮古盛岡横断道路
 ↳今年度全線開通し、釜石市で三陸道とつながります！

A

Q 釜石道の全線開通による効果は？

釜石道が全線開通すると例えば釜石から花巻間の移動が便利になるなど、
 さまざまな**整備効果が期待**されます！ (次頁へ続く)

A

釜石道の整備効果

- ① ラグビーワールドカップ 2019™ の釜石開催を支援 (第7回 2018年5月号より)
- ② 釜石道と連携した港湾の利活用 (第6回 2018年4月号より)
- ③ 港湾等との連携による企業立地の増大 (第2回 2017年12月号より)

①ラグビーワールドカップ 2019™ の釜石開催を支援

▼ ラグビーワールドカップ 2019™ の開催概要



移動時間の短縮

釜石-花巻
東北横断自動車道釜石秋田線開通後
約65分(震災前より25分短縮)

釜石-盛岡
東北横断自動車道釜石秋田線開通後
約105分(震災前より25分短縮)

花巻・盛岡等の主要都市が釜石からの移動時間が約2時間圏内

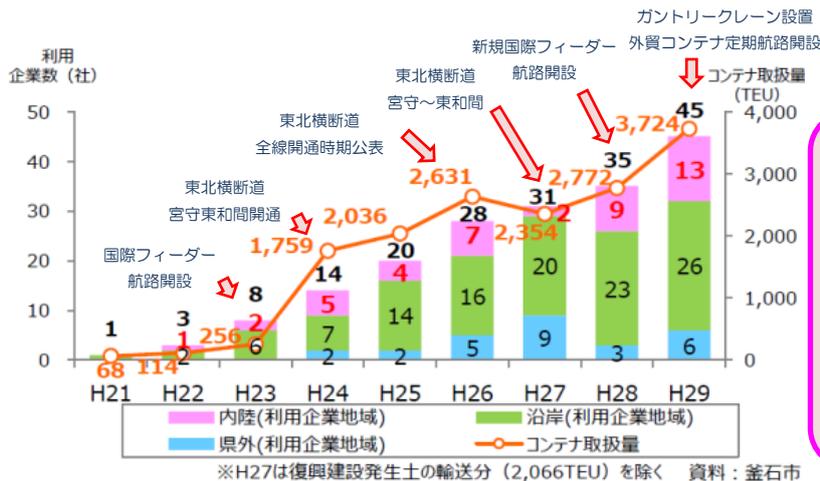
- ・ 県内各地の宿泊施設を活用
 - ・ 観戦客が各地を回遊
- 更なる波及効果を期待



←釜石鶴住居復興スタジアム
【2018年8月完成】

②釜石道の整備がコンテナ取扱量増加を後押し

▼ 釜石港利用企業数・一般貨物コンテナ取扱量の推移



③釜石道全線開通を見込み、企業立地が増大

- 北上工業団地の最近の企業立地**
- ◆ 東芝メモリ
3次元フラッシュメモリ(半導体記憶装置)の製造棟の建設(2019年竣工予定)
- 岩手中部(金ヶ崎)工業団地の最近の事業拡大**
- ◆ (株)デンソー岩手
H30秋までに自動車用メーターの生産工場を新設予定

- 東北横断道の整備の進捗に伴い、釜石港における利用企業数、一般貨物コンテナが増加
- 過去5年間で利用企業数は約2.3倍、コンテナ取扱量は約1.8倍(H29年:過去最多更新)

釜石港で稼働したガントリークレーン →



【岩手県内】復興道路等の開通予定

